

特 別 活 動 部

特別活動部長 大阪市立住吉中学校 校長 村瀬 香織

1. 研究主題

『生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造』

2. 主題設定の理由

今年度も前年度に引き続き特別活動の研究主題は、「生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造」です。この主題は、生徒自身が自ら主体的に考え方行動できること、「自治的能力」や「社会に参画する態度」を生徒一人ひとりが自ら身についていくことが大切であるという考え方から設定されています。

近年、キャリア教育の一環として、「職業観の育成」や「進路意識の向上」「コミュニケーション能力の向上」のために、職場体験学習が、ほぼすべての学校で行われています。そこで今回、大阪市教育委員会のがんばる先生支援を認定いただき、

①生徒が自らの個性を伸ばし、自己実現をめざして、自己の生き方を考え、将来に対する目的意識をもって主体的に進路選択ができるようにするために、進路指導の目標を明確にし、生涯にわたる系統的な指導内容、3年間を見通した指導計画などについて研究する。

②進路について目的意識を高めるために、進路に関わる体験活動、進路情報・資料を活用した学級活動や進路相談との関連を図り、ガイダンス機能の充実について研究する。

③社会の一員としてのあり方や興味・関心に基づく勤労観・職業観を育成するために、生徒一人一人が将来の働き方・生き方を主体的に考え方行動できるよう、「育成すべき能力」「達成すべき基準」を示しつつ、生き方や進路に関する体験的な学習を通して、実社会で働く人々からの支援や、地域社会と連携した指導方法など、系統的なキャリア教育の進め方について研究する。

とし、市内全中学校のモデルとなるべく白鷺中学校が松竹芸能とタイアップし進めている“笑育”的ノウハウや実践をもとに学習・検証することで、今後のキャリア教育の推進・充実に役立てたいと考えました。

また、各ブロック（区）で行われている「生徒会交流会」の報告をもって、生徒の「自治的能力の育成」をはかるために、各校でどのような実践を行っているかなどを交流していただきたいと考えました。代表3ブロック（区）より各生徒会交流会を中心とした取り組みについて発表いただきます。

生徒会担当として、またキャリア教育担当として、日頃抱えている悩みを共有し、経験の少ない方へアドバイスができる場として活発な意見交流の場となるよう考え設定した。

3. 研究の概要

1. あいさつ 14:00～14:05

特別活動部部長 住吉中学校 校長 村瀬 香織

研究主題 14:05～14:10

住吉中学校 教諭 山下 晃平

2. キャリア教育（キャリア教育の実践について）

①キャリア実践発表 14:10～15:00

「笑育」の取組について

白鷺中学校 教諭 大室 敦志、村上 由季、市川 優志

松竹芸能道頓堀プロジェクトリーダー 宮島 友香様

研究協議・質疑応答 15:00～15:10

②キャリア教育報告 15:10～15:25

第66回進路指導・キャリア教育研究協議会全国大会に参加して報告

鯰江中学校 教諭 楠見 尚司

研究協議・質疑応答 15:25～15:30

3. 生徒会活動 15:40～16:15

代表ブロック（区）生徒会交流会報告

3B 上町中学校 教諭 石黒 龍司

4B（西淀川区）佃中学校 教諭 鳥枝 司

8B 昭和中学校 教諭 西 真一

研究協議・質疑応答 16:15～16:25

4. 指導助言 16:25～16:35

大阪市教育委員会 指導主事 高時 隼人

5. あいさつ 16:35～16:40

特別活動部副部長 旭陽中学校 校長 進藤 文代

4. 研究の内容

1. キャリア教育の実践発表

【キャリア教育実践発表】

○白鷺中学校の紹介　〔白鷺中学校教諭　大室　敦志〕

- ・グランドデザインの中でのキャリア教育の位置づけ。
- ・組織図の中でのキャリア教育の位置づけ。
- ・以前の取り組みでは、各学年のつながりが弱かった。つながりを大切にする中で「笑育」の取り組みが始まった。

○「笑育（わらいく）」とは　〔松竹芸能株式会社　宮島　友香様〕

- ・松竹芸能について。
- ・笑いを通して、子どもたちに身につけてほしいこと。
- ・自己肯定感を高める。
- ・全国の学校や企業のセミナーでも実施している。
- ・白鷺中学校では、自分の好きなところをテーマに、全14回で取り組んだ。

○白鷺中学校での「笑育」の取り組み　〔白鷺中学校教諭　村上　由季、市川　優志〕

- ・14回の内容を紹介する。
- ・学年通信で、全員分の感想文、アンケートの結果を掲載。
- ・漫才発表で、上位5組が文化祭で発表し、上位3組は道頓堀角座の舞台に出場。
- ・テレビ取材の様子と1位の組の漫才の紹介。

○研究協議、質疑応答

Q 取り組んだ学年の規模は？

A 5学級、176人84組。

Q 予算は？

A 金額は、人数や回数によって様々である。

A 白鷺中学校では、校長経営戦略予算を使い実施した。

Q やり直しできるなら、どこを直したいか？

A ネタを「すきなもの」に限定したので、かぶってしまうことが多かった。いろいろなテーマでやらせたい。

Q 回数など、どのような見通しを立てて考えればよいか？

A 回数は、1回から可能、内容もいろいろあるので相談してほしい。

【キャリア教育報告】　〔鯰江中学校教諭　楠見 尚司〕

○第66回進路指導・キャリア教育研究協議会全国大会に参加して報告

- ・自分の将来に希望を持てない、自分のことを大切な存在だと感じられない割合がかなりあるという生徒の実態。
- ・40年後には、生産年齢人口が5割程度になるという社会の実態。
- ・変化の中で「自分らしい生き方」を実現できる人間の育成するために、キャリア教育が必要。
- ・全ての教育活動を「キャリア教育」の視点から見直してみる。キャリア教育につながらない教育活動はない。
- ・意図的、計画的に「キャリア教育」を行う。
- ・生徒の自覚と実感を促し、「生きた学び」「生きる学び」に主体的に取り組むことができるようになる。

○研究協議、質疑応答

- ・資料等が必要なら、住吉中学校村瀬先生まで

2. 生徒会交流会の報告

【生徒会活動 代表ブロック(区)生徒会交流会報告】

○ 3 B [上町中学校教諭 石黒 龍司]

- ・司会進行を例年通り生徒会に担当させた。
- ・ＩＣＴ機器を使って発表する学校が多かった。
- ・質疑応答が盛りあがった。
- ・動画が流れないとトラブルがあった。
- ・テーマを決めて話し合いをさせることも取り組ませたい。

○ 4 B [(西淀川区) 佃中学校教諭 鳥枝 司]

- ・4中学校で協力してできる取り組みについて話し合う。
- ・活動の発表は、主催校は10分、その他の学校は3分で実施した。
- ・模造紙に付箋をはっていくなどの工夫をしてすすめた。
- ・ランダムに6班を作って話し合いをさせた。班ごとに活発な意見が出た。
- ・区単位ではなく、ブロック単位で実施したい。

○ 8 B [昭和中学校教諭 西 真一]

- ・今年度の生徒会交流会を実施するまでの流れを説明。
- ・過去に取り組んだテーマの紹介。
- ・交流会後は、仲間であってライバルであるという関係ができ、積極的に活動する姿勢がみられる。

○研究協議、質疑応答

- ・4Bは交通の便が悪く、18校が集まるのが難しい。実施するなら、淀川区役所を利用することができるのではないか。
- ・6Bは、11月末に生徒会担当者が集まる。
- ・5Bは、以前は会館を利用して実施していた。生徒会活動で先行している学校をまねて他校が学んでいった。
- ・7Bでは、ピアサポート活動を実施している。

3. 指導助言

[大阪市教育委員会 指導部 中学校教育担当 指導主事 高時 隼人]

- ・大阪市教育振興基本計画の2つの最重要目標について。
- ・全国学力学習状況調査における大阪市の厳しい現状について。
- ・特別活動がキャリア教育の要であること。
- ・一貫性を持ち、充実感を味あわせる。複数回の振り返りも必要であること。